

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和3年1月6日 報告者：片井 明子

行事種別	講演会	行事番号	200003544	
開催日	令和2年12月12日(土)			
時 間	開 始	—	終 了	—
場 所	Web 配信 (Web ライブ)			
テーマ	輸血療法の実施に関する指針、赤血球型検査ガイドラインの変更に伴う最近の輸血業務			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点 (e-learning に回答した愛知県会員にのみ付与)			
司 会	愛知医科大学病院 片井 明子			
講 師	講 演 1 : 輸血療法実施に関する指針の一部改正に伴う業務の変更点 JA 愛知厚生連 江南厚生病院 市川 潤 講 演 2 : 赤血球型ガイドラインの改訂 (案) に伴う業務の変更点 日本赤十字社 東海北陸ブロック血液センター 加藤 静帆 特別講演：今の輸血は安全か？感染症を中心に 愛知医科大学病院 輸血部教授 加藤 栄史			
内 容	令和2年3月31日付で「輸血療法の実施に関する指針」の一部が改正され、輸血前後感染症検査の在り方が変わりました。また、輸血業務を行う上で重要となる赤血球型検査ガイドライン (改訂第3版) が公開されました。指針やガイドラインの変更に、どのように業務を変更すべきか検討されている施設もあると思います。今回は、指針・ガイドラインのポイントや業務の変更点をそれぞれ2人の講師より具体例をあげわかりやすく解説していただきました。特別講演では、加藤教授に輸血後感染症検査の在り方が変更になった経緯や背景について、HBV、HCV、HIV の輸血後感染症を中心にお話いただきました。今年輸血後感染症検査は全例から必要がある時のみ実施することへ、全く真逆な考え方が学会から示されましたが、NAT 検査導入時と現在までの輸血後感染症について発症例や検査法などについてのお話で、経緯を理解できることができ有意義な講演会でした。今回の講演会は Web ライブで行いましたが、多くの方に視聴していただき、質問もその場で受けることもできました。アンケートでは臨場感はあってよいという意見がある一方 Web で繰り返し聞きたかったという意見もありました。 申し込みは142名で、視聴者は最高109人でした。			
参加者	総数：142名 (申し込み会員137名、県外会員4名、非会員0名、賛助会員1名、学生0名) レポート提出：89名 (愛臨技会員88名、県外会員1名)			

共催、後援など	特になし
---------	------